

オールとくしま・プロジェクト2020

新型コロナウイルス感染症 個別相談 (初回相談無料)

本会では、新型コロナウイルス感染症の影響で、失業や再就労、就学、家計、住まい、生活資金等のほか、各種補助金や助成金、給付金、事業資金、納税猶予などの様々な不安と困りごと、将来への見通しに関する相談に応じるため、個別相談窓口を設置し、常時対応いたします。(要予約)

現在では、個人・事業者それぞれに向けた様々な支援策が講じられています。今後の生活の安心・安定に向けた新たな一歩を歩みだすためにも、まずは、皆さま一人ひとりの状況に応じた活用可能な施策やサービスを知る機会としてご活用ください。解決に向けた適正な窓口のご紹介を含め、ご相談に応じます。

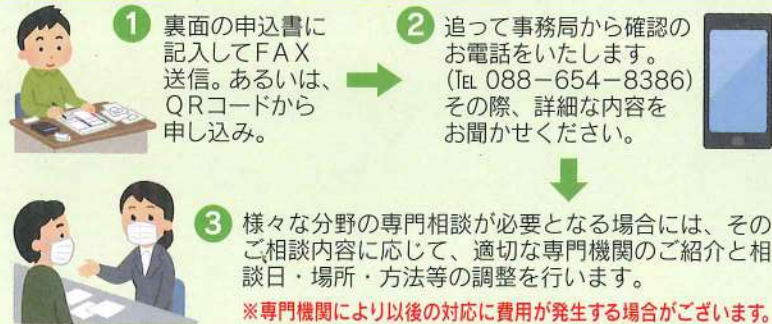


とくしま福祉広報

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

〒770-0943 徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター内
tel: 088-654-4461 fax: 088-654-9250
e-mail: info@e-fukushi.jp https://fukushi-tokushima.or.jp/

申し込みから相談までの流れ



受付期間：令和3年9月末まで(平日9:00~16:00)
事前予約制(申込用紙に希望日時を御記入ください。)

専門相談協働機関

徳島県社会保険労務士会、四国税理士会徳島県支部連合会、一般社団法人徳島県中小企業診断士会、徳島県司法書士会、公益社団法人徳島県不動産鑑定士協会、徳島県行政書士会、徳島県土地家屋調査士会、徳島弁護士会、公益社団法人徳島県建築士会、一般社団法人日本建築学会四国支部徳島支所、徳島県技術士会、一般社団法人徳島県建築士事務所協会、公益社団法人日本建築家協会四国支部徳島地域会、公益社団法人日本技術士会四国本部、徳島県生活困窮者自立支援協議会、徳島県内の社会福祉協議会 ※順不同

徳島弁護士会も県社協の【士業ネットワーク・新型コロナウイルス感染症 個別相談窓口事業】に協力しております。具体的には、上記の個別相談窓口へ寄せられた相談が法律相談であった場合、県社協から当会の新型コロナウイルス電話相談(受付088-652-5768 通話料はかかりますが、相談料は無料です)が紹介されます。

そして、(担当弁護士の判断によって)電話相談に続いて面談相談が必要とされる場合でも、初回面談相談料を県社協に負担してもらえます。新型コロナ禍の影響もあり、借金、解雇・雇止め、離婚、相続、住居確保、生活保護等に関する様々な法律問題を抱えておられる方も多いと思います。この機会に県社協の個別相談窓口をご利用いただければと思います。

(徳島弁護士会 会長 森 晋介)



～士業との協働による個別・総合相談～
※県弁護士会とのケース検討・情報共有

※士業ネットワークとは

様々な分野の高度な専門性を有する専門職団体の連合体。平時は、行政等と連携し、県民の生活再建支援などに向けた体制構築に努めている。災害時にも、行政やその他の関係者と連携し、被災者の生活再建を支援する。



Web申し込みは
こちらから



ボランティア・NPOの情報誌

56号
Jul. 2021

とくしま県民活動プラザ

〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14番地
沖洲マリナーミナルビル1F
tel: 088-664-8211 fax: 088-664-5345
e-mail: info@plaza-tokushima.com
http://www.plaza-tokushima.com
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日、年末年始)



ひと56号 July.2021

CONTENTS

特集 NPO法人 ひとつむぎ
"ひと"と"ひと"をつむぐ存在でありたい

ひと NPO法人 科学技術ネットワーク徳島
英 崇夫さん
～興味のポテンシャルを高めたい!～

シリーズ この人から
NPO法人徳島共生塾一歩会 谷口 右也さん
中山間地農家の「ごまめの歯ざしり」

事業報告
とくしま県民活動プラザ事業の紹介

ハートリレー
No.56 小倉さんから金子さんへ



牟岐町を拠点に「ひと」と「ひと」をつむぐことから生まれる
教育やまちづくりを目指して活動する大学生の団体です。





ひとつむぎ

“ひと”と“ひと”を
つむぐ存在でありたい



ひとのあたたかさを感じる町 牟岐

とうこう ともひろ
理事長 藤稿 智宏さん

平成26年夏、牟岐町で、開催された高校生向けサマースクールを、大学生が地域の方々と協力し運営していく機会がありました。大学生たちは、この町の豊かな自然や文化、また、何よりひとの温かさ

に触れ、牟岐という町に惚れ込みました。そして、「お世話になった牟岐町に恩返しをしたい」と立ち上げたのが『ひとつむぎ』です。

主な活動は、「シラタマ活動」と「ローカルハイスクール」、「京都・若者関係人口創出事業」です。いろいろな活動を企画、運営していく中で、メンバーが、知恵を絞り、話し合いを重ねることで、ひとつずつ課題の解決方法が見つかっていきます。そして、ひとつのプログラムが無事終わり、やり遂げた時の達成感

は格別のものがあります。また、地域の方たちが、どんな時も、大学生を「地域に関わる人」として温かく受け入れてくれているのが、本当に有難くて嬉しい。ひとつむぎの会員は、大学卒業とともにひとつむぎを退会します。大学生生活最後の今年、自分のこれからの関わり方を考える1年にしたいと思っています。社会人になっても、仕事でこの町に関わることができるかもしれません。大好きな牟岐をもっと他の人にも好きになってもらいたいです。“ひと”と“ひと”とのつながりを大事にしながら、この町に、ずっと寄り添い、関わっていきたくと思っています。

この町に夢中

おち ひより
理事 越智 日和さん



高校生の時、友人に誘われて参加したローカルハイスクールで、初めて、ひとつむぎ

のメンバーに接しました。自分の意見をしっかり持ち、牟岐の子どもたちや地域のことを考えながら大学生を送っているメンバーとの出逢いでは、大きな衝撃を受けました。私は、主にシラタマ活動を企画、運営しています。活動する中学生が大きく成長していく様子を見ると、本当にやってよかったと感じます。この町、ひと、そして、ひとつむぎ。それぞれに関わったからこそその尊い学びがあります。この町と共に過ごす時間は、私には大切な時間です。私が夢中になったこの町の魅力を、多くの人に伝え、牟岐町のファンを増やしていきたいです。



夢は大きく世界へ！

くりさか みのり
副理事長 栗坂 岬乃吏さん

「京都・若者関係人口創出事業」担当で、関西圏の大学生たちと牟岐をつないでい

ます。京都の町屋で社会人のゲストを迎え、自分を見つめ直す機会を設けるイベントなどを開催しています。現在はコロナ禍で、思うように活動ができず、試行錯誤しながら牟岐での活動や魅力を発信しています。県外の学生たちが、牟岐に行ってみたくてくれるのが一番の喜び。ひとつむぎに参加して、イベントを企画するうちに、いろんな人たちを巻き込める力がつきました。

今の自分があるのは牟岐町の人たちのおかげです。もっと牟岐を知ってもらい、もりあげて、町の人たちを笑顔にしたいです。

キラキラ輝きたい！

しいの ひな
監事 椎野 陽向さん



高校生の時に会ったひとつむぎの活動は、とても刺激的で自分を成長させてくれるものでした。そしてひとつむぎのメンバーはみんなキラキラ輝いていて、自分もそんな大学生になりたいという思いから、ひとつむぎでの活動をはじめました。以前は自分の感情

や意見を思うように伝えることができませんでしたが、ひとつむぎで活動してからは、自分の意見が言えるようになりました。成長した中学生、温かく支えてくれた牟岐町の人たち、そして私たちひとつむぎの取組みが一体となる瞬間は何事にも代えがたい最高の感動です。牟岐町出身ではない私たちを優しく受け入れてくれる、そんな牟岐は第二の故郷です。

私たちの活動

まちづくり

教育支援

交流支援

大切にしている4つの姿勢

- よりそうこと
- よそものであること
- 学び続ける存在であること
- 対話を大切にすること

シラタマ活動(牟岐町の中学2年生の冬～中学3年生の夏、月1回程度)

牟岐町の中学生が、後輩たちや地域住民を巻き込んで、地域の課題を解決するためのイベントを考え、つくりあげます。ひとつむぎの大学生が、プログラムの設計や運営をサポートし、中学生は活動や大学生とのワークショップを通じて主体性と協調性を身につけます。



活動の方針や内容、目標について皆で意見を
出し合いまとめる様子



「食」をテーマにした動画作成に
協力してくれた地域の農家の皆さん

ローカルハイスクール(牟岐町出身及び町外の高校生対象、春・夏に合宿型セミナー開催)

高校のない牟岐町で、牟岐町出身の高校生とその友人が参加し、全国の大学生や社会人をゲストに迎える新たな学びの場をつくり、牟岐町に関わる人のネットワークを広げています。



春・夏のサマーカーンプで
大学の学びを体験する様子



社会人ゲストを迎えての
ワークショップ

京都・若者関係人口創出事業

京都産業大学や企業と連携し、徳島と関西圏の大学生が参加する若者の人材交流に取り組んでいます。冬は京都市、夏は牟岐町においてイベントや講座を開催し、牟岐町の関係人口を創出しています。



京都の町屋で「働く価値観を広げよう」というテーマで社会人ゲストを迎え
自分を見つめ直すキャリアイベントを開催。
関西圏の大学生と交流し、牟岐の魅力を発信している。



(取材：丸山・橋本)



特定非営利活動法人 ひとつむぎ

とうこう ともひろ
理事長 藤稿 智宏

事務局：〒771-1153

徳島県徳島市応神町吉成字有天 4-7

U R L : <https://www.hitotsumugi.org/>





興味のパテンシャルを高めたい!



NPO 法人 科学技術ネットワーク徳島
 はなぶさ たかお
 理事長 **英 崇夫さん**
 連絡先 Mail: stnettokushima@gmail.com

今回ご紹介するのは、NPO法人「科学技術ネットワーク徳島」の英 崇夫さんです。

子どもたちに、科学に対する新鮮な驚きや好奇心・探求心を持ってもらい、もっと科学を身近で楽しいものと感じてほしいと願い、活動を続けられています。

英さんが徳島大学に勤務していた頃、大学生が自主的に科学に関する研究や活動のできる場を作りたいと考え、異なる学年や学部の学生たちがチームを構成し、自由な意見交換の下に共創的に活動する場づくりの研究を始めました。活動していくなかで、チームメンバーから、自分たちの研究を高校生や小中学生に伝えたいという声があがり、出前講座を開催するようになりました。

出前講座は大変好評で、小学生～高校生の子どもたちが実験や工作を楽しみながら科学を学べる場となっていて、子どもたちは、実際に見る・触れる・感じるという体験に目を輝かせていました。英さんは、もっと子どもたちに学校ではでき



科学実験観察教室の様子

ない経験をしてもらい、科学の芽を大きく育てたいという考えから、科学技術ネットワーク徳島を作ったと話してくださいました。

科学技術ネットワーク徳島では、子どもたちが楽しく科学実験や観察を体験できる科学実験観察教室を開催しています。科学への興味を高め、理系に進む学生の増加とレベルアップをしてほしいとの思いで15年以上活動を続けているそうです。

現在は、あすたむらんど徳島や鴨島公民館を中心に、一つのテーマを4～5回のシリーズにして、科学実験観察教室を開催しています。また、徳島大学の「科学体験フェスティバル」や、阿南市科学センターの「科学の祭典」にブースを出し、そこには多くの子どもたちが生き生きと楽しそうに参加してくれているそうです。

小さい頃は男の子も女の子も本当に科学が好きなのに、科学の分野に女性が少ないのはとても残念。どのような場でも、女性と男性は同じ比率で、発想を出し合い協働できる世界になればいいのではないかと、英さんはおっしゃいます。

私たちは、ネットワークをもっと広げて、同じ志をもつ仲間とつながり、悩みなどを共有し助け合って、これからも、子どもたちの科学への思いを醸成していきたいと、力強く語ってくださいました。

科学の面白さや不思議さに気づき、興味を持つ子どもが増えるよう、英さんの活動はこれからも続きます。

(取材：篠原・佐藤)

シリーズ この人から

中山間地農家の「ごまめの歯ざしり」

NPO法人徳島共生塾一步会 谷口 右也
 理事長 たにぐち すけや

怒濤の快進撃?のはずが...

季節は巡り、「水田の格闘技(?)」と勝手に呼んでいる、中山間地農家の一大イベント「田植え」も終え、さらに、わが一步会の事業計画にも「中山間地の研究」を加えてもらい、こちら新たな年度がスタート。



着工を待つばかりの更地

で、「隗(かい)よりはじめよ」と設置をした獣害対策用のワイヤーメッシュの柵。なんと、翌日にはイノシシの開けた大きな穴。イノシシのパワーと人間の非力さにショック!

そして、農地とともに中山間地の共通の悩みが家屋。というより、田舎なので「屋敷」。

だいたい広い敷地に家を建て増し、住んでいるのは少人数。実家も母の一人住まい。私の余力があるうちに、「解体をしてスリムな家を建てよう」と着手。

と、そこまでは良かったものの、次々にでてくる課題。まずは資金。法律や条令の制約。とりわけ、「公図」という見取り図が、「現況」より正しいとされる登記制度。素人と業者の互いに通じない「常識」などなど。

中山間地の「空き家の活用」とはよく言われるけれど、「改修も解体」も、地域の将来を見据えて、人と家と土地を一体で考えないと、自己責任だけでは難しいのを実体験中。

中山間地農家の大変身、「怒濤の快進撃」とはいかぬものの、「一步一歩」と歩んでいます。

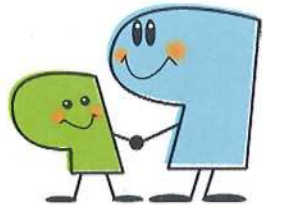


とくしま県民活動プラザ事業の紹介

令和3年度に実施予定の「とくしま県民活動プラザ」事業の一部を紹介します。是非ご活用ください!

- NPO出前講座** プラザ職員がNPO等に出向き、各団体の運営等に関する研修会等の講師を務めます。
- プラザ主催講座** プラザにおいて、NPO等の人材育成や組織強化に資する研修会を開催します。
- NPOおためし体験** 社会貢献活動に興味のある人が、おためし体験としてNPO等の社会貢献活動を短期間体験します。
- NPO小中高等学校出前授業** NPO等のスタッフ等を講師として学校に派遣し、出前授業を行います。
- NPO法人支援事業** NPO法人の設立・運営に関する相談やNPO法に定める事業報告等の受付け等を行います。

*上記のほか、p6に紹介している「NPO強化事業」等も実施予定です。



2022年度生(2022年4月1日学習開始)10月1日より受付開始! 教育訓練給付制度対象講座 ※「社会福祉学科 一般養成課程(1年コース)」は対象外です。

社会福祉学科 通信課程

一般養成課程(1年6ヶ月コース) 1年コース 短期養成課程(9ヶ月コース)

精神保健福祉学科 通信課程

一般養成課程(1年7ヶ月コース) 短期養成課程(9ヶ月コース)



詳しくはこちらからHPをご覧ください。

～進学説明会のご案内～

9月26日(日) 10:30~13:30

場 所/徳島市寺島本町東3-12-7 マスダビル4F 穴吹カレッジサービス 徳島出張所(404教室)

社会福祉士や精神保健福祉士に興味があり通信制で資格取得を考えている方へ、学習内容(レポート・スクリーニング・実習)等について説明や個別相談を行います。事前予約は必要ありません。左記以外の日程については、お問い合わせください。*実習該当者は、出願前に必ず進学相談会にご参加ください。

好きを極めてプロになる

投資家パティシエ福祉カレッジ

〒760-0021 香川県高松市西の丸町14-10

TEL.087-823-5566

ハートリレー

No.56 小倉さんから金子さんへ



専門薬剤師・認知症キャラバンメイト
かねこ あやこ
金子 亜矢子さん

専門性を生かして地域で支える

「薬局だけではとどまらない、外に出てアピールし啓発活動を行う。必要としてくれる人の所に足を運び薬剤師を目指しています。」そう話す彼女は薬剤師、防災士、認知症ケア専門士、認知症キャラバンメイトといくつもの資格を持ち、とても前向きに活動しています。

私との出会いは3年前、レビー小体型認知症家族会設立準備会で行った講演会。筑波大学教授の話に目を輝かせて聞いている姿を見て、彼女なら困っている家族さんや患者さんに寄り添ってくれる人だと感じ、徳島レビー小体型認知症家族会のスタッフとしてお願いしたところ、快く受けて頂きました。今では持っている資格を活かし、常に前向きに勉強し、とても頼りになる存在です。

2025年には認知症700万人、高齢者の5人に1人が認知症の時代がやってきます。彼女のような若い薬剤師が認知症に向き合い認知症サポーター養成講座を実施し、頑張っている姿に刺激を受けている人は少なくないと思います。

文・小倉 和代



とくしま県民活動プラザ

●プラザ開館時間 開館時間：10:00～18:00
【研修室利用時間】 火曜日～土曜日：10:00～21:00
日・祝日：10:00～18:00
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、
年末年始(12/29～翌1/3)



●公共交通機関をご利用の場合●

JR徳島駅前、徳島市営バスターミナル6番のりばより、
・「中央市場」行きに乗車 終点「沖洲マリンターミナル」下車すぐ
・「沖洲・南海フェリー前(マリンピア経由)」行きに乗車「マリンターミナル前」下車すぐ

NPO強化事業 講師を派遣します!!

NPOやボランティア団体が社会貢献活動を推進するために
行う各種事業に講師を派遣し、貴団体の活動を支援します。

<経費の負担について>

・NPO強化事業の謝金と旅費の一部をプラザが負担します。

<NPO強化事業の流れ>

1. 申請
・事業実施の14日前までに申請書等を提出してください。
・プラザに団体登録していない団体は登録してください。
2. 決定
・申請書を受けて、審査のうえ、予算の範囲内で決定し通知します。
・1年度1団体あたり1回、講師1名とします。
3. 報告
・事業実施後、速やかに実績報告書等を提出してください。

※詳細についてはプラザのHPをご覧ください。

編集後記

4月よりスタッフの一員として新しく仲間入りさせていただきました。何事にも挑戦する気持ち、日頃私を支えてくださっている方への感謝、新しい出会いを大切に、日々学びの精神で頑張ります。まだまだコロナの影響で制限されることが多い毎日。一人ひとりが自分なりにできることを改めて考え、実践していくことにより感染の拡大を防ぎコロナ収束の近道になるのではないのでしょうか。自由に会いたい人に会える、行きたい場所へ行ける…そんな日が1日も早く戻ってきますように(*^_^*) (佐藤)

『子どもの居場所』づくり ～子どもの育みを地域で見守るVol.2～



外遊び場 さっちゃんち よこ

子どもたちが、外でのびのび元気に遊べる
プレイパーク



※詳しくは、下記サイトをご覧ください。



「とくしま子どもの居場所づくり応援サイト」
<https://t-ibasyo.com/>



NARUTO総合型スポーツクラブ 子育て応援隊! キッズステーションNARUTO

大人と接しながら社会性を学び、
生涯の仲間を見つけられる場所



社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
地域福祉課 子どもの居場所づくり推進事業担当
TEL: 080-8633-1657
FAX: 088-654-9250
メール ibasyo@tokushakyo.jp

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

保険金額・年間保険料(1名あたり)

保険金の種類	プラン	
	基本プラン	天災・地震補償プラン
死亡保険金	1,040万円	
後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
入院保険金日額	6,500円	
	手術 入院中の手術	65,000円
手術 外来の手術	32,500円	
通院保険金日額	4,000円	
地震・噴火・津波による死傷	X	O
賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)	
年間保険料	350円	500円

団体割引20%適用済/過去の損害率による割増引適用

<基本プランに加入される方へ>
基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。
※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

令和3年度
全国200万人加入!!
<https://www.fukushihoken.co.jp>
ふくしの保険 検索

商品/パンフレットは
コチラ
(ふくしの保険ホームページ)



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30～17:30(12/29～1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

CLEANUP アドプト・プログラム吉野川
吉野川を私たちの手でもっときれいに!!
参加団体募集中!!
HPはこちらから↓

吉野川交流推進会議 徳島県庁 未来創生政策課内
TEL: 088-621-2743 FAX: 088-621-2758

徳島県医師会は「禁煙」を推進しています!



一般社団法人
徳島県医師会
会長 齋藤 義郎
徳島市幸町3丁目61番地
TEL 088-622-0264

ふくしと私



社会福祉法人 徳島県身体障害者連合会

障害者支援施設 眉山園

主任 サービス管理責任者 篠塚 亮太

福祉の世界に入ったのは、高校卒業後。もともと違う道を歩もうとしていたが、施設長にお声掛け頂いた事がきっかけでした。福祉の世界は未知でありましたが、学生時代より支援学校の生徒さんと関わる機会も多々あり、障害者の方との関わり方には、あまり苦労しませんでした。入社後は同法人の眉山園デイサービスセンターに勤務し、利用者さんの基本的な介助をさせて頂きました。今、思えばデイサービスでの介助中に声

し、利用者さんの幸福と、希望を持った生きがいが増えるための生活支援を行う施設として設置され、ニーズに合わせた支援、また、ご自身が持たれる力を引き出すための支援を行う事により、障害者福祉の増進と地域生活の向上に寄与することを目的としています。もともと入所授産施設であった事もあり、日中は生産活動を中心とした生活で、他の生活介護事業所に比べても就業意欲の高い施設だと思っています。

私の働いている施設は、昭和五十七年六月に重度身体障害者入所授産施設として開設されました。平成二十二年十月には障害者自立支援法施行により新事業体系に移行し、日中は生活介護、夜間は施設入所支援事業を行っています。施設の目的は、在宅で常時介助を必要としている方々が入所



秋祭り

しかし、近年では障害者施設の高齢化が問題となっており、当施設も長年入所されている利用者さんが多く、日中の過ごし方も変わりつつあります。私はサービス管理責任者という立場もあり個別支援計画作成時などに利用者さんからの困っていることや将来像についてよく話をしますが、住み慣れた場所でもごしたい、仕事をしてもっと工賃を増やしたいなど、思いや悩みは多様です。そのような悩みを日々共感し、利用者さんと一緒に解決策や目標を決めていくのも、今ではやりがいを感じているところでもあり、悩んでいる事でもありません。

最後に、施設における利用者支援の在り方について自分なりに思うのは、目まぐるしく変化する福祉の世界において、施設にはそれぞれ歴史があり、環境も違う。社会情勢に応じ施設が変化していくのは必要ですが、根本的な利用者の思いを大切にすることや、未来を一緒に作っていく事には変わりはない。施設の歴史や創設者の思いは大切に引き継いでいきたい。達成する



施設外観

地域とお客さまの「ベストパートナー」へ

阿波銀行
http://www.awabank.co.jp/

ともに未来へ
~ to the future with ... ~

徳島大正銀行
トモニホールディングス

人とのつながりを活かす



社会関係が豊かな人ほど、認知症のリスクが低くなり、長寿でいられるとの研究報告があります。実際に地域の誰かとつながることで、困ったときに悩みを相談したり、情報をもったり、助けてもらうことができます。人との交流を通じて、居場所や仲間意識を感じたり、自分の判断や行動が認められ、安心感や充実感が得られます。

また、人々とのつながりは個人にとどまらず、治安や防災の備え、福祉や保健の強化など、地域の安定にも恩恵をもたらします。

一方で、人とのつながりを減らし、本当に親しい人との交流だけを選択的に残すことで、精神的安定を手に入れる人もいます。心地よい社会関係の形は人それぞれに異なるものでもあります。

現在、介護予防対策の一つとして通いの場、サロン活動の推進が行われています。サロン活動は、地域の高齢者が中心となって活動内容を決め、運営し、誰でも自由に参加できるものです。こうした地域活動をうまく利用して、自分にとって居心地のよい距離感で人とのつながりをつくり、健康維持や豊かな生活に活かしていきたいところです。



＜阿波市しあわせの阿波プロジェクトによるサロン活動＞



徳島大学大学院
医歯薬学研究部
口腔保健福祉学分野
講師

柳沢 志津子
やなぎさわ しずこ

ひろがる未来・つなぐ活動

高齢者に夢と生きがいを

「公演のお声がけをいただければ県内どこまででも出向いて行きますので、お気軽にご連絡ください。」

寿みつよし劇団は、昭和55年の発足から40年以上の長きにわたり、阿波市内外の社会福祉施設や地域のイベント等で芸能ショーを繰り広げている。活動方針は、高齢者に楽しい時間を過ごして喜んでもらうこと。歌や踊り、寸劇や大道芸など、高齢者が好む盛りだくさんの出し物で何度も会場を沸かせてきた。

「お年寄りに喜んでほしい、生きがいが持てる手助けをしたい」との思いは活動当初から変わらない。楽しみに待っている人がいるから練習にも力が入ります。団員がやりたい事を優先するのではなく、お年寄りに喜んでもらえるものを一番に考えるということを大事にしています。」

現在の団員数は15名。定年退職した方や農業従事者、書道家など30～80代の幅広い世代が在籍し、年々加入を希望する方も増えている。令和元年秋の褒章では、緑綬褒章も受章された。

「衣装や小道具などにかかる費用の負担は軽いものではないですが、舞台を観て笑い、時には涙を流し、「また、来てほしい」「今度はいつ来てくれるのか」と言葉をもらうと、それ以上のものはありません。」



寿みつよし劇団



衣装や大道具、装置等の活動原資はすべて団員相互の負担でまかなっている。お年寄りに合わせた出し物は、男性が多ければ「任侠もの」、女性が多ければ「悲恋もの」を披露し、歌やセリフはすべて暗記する徹底ぶりだ。

「長く続けてこられた秘訣は、ボランティア精神を忘れないということはもちろんのこと、団員全員が和気あいあい、楽しんで活動しているからです。舞台を通じて得たたくさんの人たちとの出会いは、私たちにとってかけがえのないものとなっています。コロナが落ち着き、舞台を楽しみに待っている皆さんにお会いできる日まで、練習に励みます。」

(連絡先：
寿みつよし劇団 副団長 三善 雄次郎 090-1327-3438)

改めまして「新たな避難情報」ご存じですか？

近年、頻発する自然災害はその規模をますます拡大しており、毎年、日本各地で甚大な被害が発生しています。

福祉関係者は、日頃から地域において要配慮者等の日常生活を支えつつ、避難確保計画や事業継続計画を作成したり、実践的な避難訓練等を実施したりして、災害発生時にも円滑に対応できるよう備えを進めています。

- 令和3年5月20日付で、災害対策基本法の一部を改正する法律が施行され、「避難勧告」と「避難指示(緊急)」は「避難指示」に一本化されました。
- 大雨等で災害発生のおそれが高い状況で、市町村から警戒レベル4「避難指示」が発令された場合は、**危険な場所から必ず避難しましょう。**
- なお、この「避難」。避難所に行くことだけが避難ではありません。「難」を「避ける」ことを大切に。水害のときなどは、2階へ移動することなども避難に有効ことがあります。

危険からの回避や被害の軽減を図るためにも、日頃から、避難のタイミングや避難場所の確認、持出品や備蓄などの備えを今一度確認するとともに、とにかく早めの避難行動に努めましょう。

令和3年5月20日から 避難指示で必ず避難 避難勧告は廃止です

警戒レベル 4

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	緊急安全確保※1	災害発生情報 (発生を確信したときに発令)
4	避難指示※2	避難指示(緊急) 避難勧告
3	高齢者等避難※3	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)	大雨・洪水・高潮注意報 (気象庁)
1	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発生される情報ではありません。
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることになります。
 ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じて避難の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

警戒レベル5は、すでに安全な避難ができず命が危険な状況です。警戒レベル5緊急安全確保の発令を待ってはいけません！

避難勧告は廃止されます。これからは、警戒レベル4避難指示で危険な場所から全員避難しましょう。

避難に時間のかかる高齢者や障害のある人は、警戒レベル3高齢者等避難で危険な場所から避難しましょう。

内閣府(防災担当)・消防庁

「避難」って何すればいいの？

小中学校や公民館に行くことだけが避難ではありません。「避難」とは「難」を「避」けること。下の4つの行動があります。

行政が指定した避難場所への立退き避難

自ら携行するもの
・マスク
・消毒液
・体温計
・スリッパ 等

安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

普段からどう行動するか決めておきましょう

安全なホテル・旅館への立退き避難

通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。
※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。

屋内安全確保

ハザードマップで以下の「3つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫かを判断する必要があります。
※土砂災害の危険がある区域では立退き避難が原則です。

「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

- 1 家屋倒壊等危険想定区域に入っていない(入っていると)
- 2 浸水より原型は高い
- 3 水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備蓄が十分(十分じゃないと)

※1 家屋倒壊等危険想定区域や※2 水がひくまでの時間(浸水継続時間)はハザードマップに記載がない場合がありますので、お住まいの市町村へお問い合わせください。
 ※3 浸水の屋外の移動は命を失ふ危険です。ヤレをえず事出する場合は、浸水しないよう地帯の状況等を十分に確認して下さい。

地域で暮らし続けるために ～支え合いで熱中症予防～

蒸し暑い日本の夏は、過度の発汗による脱水症の危険と隣り合わせ。なかでも体力の弱いお年寄りや幼児を抱えるご家庭では、よりいっそう脱水症や熱中症への注意が必要です。

徳島県社会福祉協議会は、毎年、大塚製薬工場様のご厚意によりOS-1をご提供いただいています。ご提供いただいたOS-1は、各市町村社会福祉協議会が中心となって、特に配慮の必要な地域住民宅へ届けられ、熱中症予防に向けた住民同士の見守りや支え合い活動に役立てられています。



平成26年8月豪雨災害アーカイブス “あの夏を忘れない” ～復興期の見守り活動とOS-1(那賀町社会福祉協議会)～

平成26年8月。台風12号・11号の影響で、四国地方では、降り始めからの雨量が1,000ミリを超えるなど、8月の平均降水量の2～4倍となりました。県内では、阿南市と海陽町、那賀町において床上・床下浸水被害が深刻な状況となり、災害ボランティアセンターを立ち上げました。(那賀町：8月13日～8月24日)

那賀町社会福祉協議会では、地域や県内外のボランティア、保健師や建築士、弁護士などの専門士業、社会福祉協議会や支援団体と協働し、住民一人ひとりの復旧・復興を支援しました。センター閉所にあたって、住民ニーズなどに基づき、地域の民生委員児童委員等と全戸に“那賀よしパック”を手渡ししたり、復興行事“那賀町応援プロジェクト”を立ち上げたりして地域の支え合い活動を推進しました。

そして、翌年の出水期を迎え、“豪雨”への不安を抱える住民の声が聞こえてきたこともあり、那賀町社会福祉協議会では地域の民生委員児童委員や保健師、行政等と協働して住民宅に訪問する際にOS-1を持参して、夏の熱中症予防を啓発しつつ、くらしの中での困りごとや健康面での不安などについて、一人ひとりの相談に応じました。



徳島県防災・危機管理情報

安心とくしま

詳細はこちらからご確認いただけます。

<https://anshin.pref.tokushima.jp/docs/2021051100011/>

ありがとうございます
預託一覧

- 自然保護活動団体あおいろ様より、4施設1団体へレモン果汁の御寄贈
- レディ薬局様より、10施設へ車椅子の御寄贈
- 株式会社セブン-イレブン・ジャパン様より、阿南市社会福祉協議会へ店舗改装に伴う在庫商品の御寄贈